# 言語文化と日本語教育 \*\*号（20\*\*）　　　　　　　　　　　　 　 第\*\*回　日本言語文化学研究会　ポスター発表要旨

# 発表の題目（MSゴシック18pt、行間：固定19pt）

－副題（MSゴシック14pt、行間：固定17pt）－

御茶　華子

## 1. 章の見出し（和文MSゴシック、欧文Arial 9pt見出し2に指定）

日本社会の多文化化を受け、社会を構成する受け入れ側と参入側の共生の必要性が唱えられてきた（松尾, 2006; 野々口, 2012）。お茶の水女子大学では、日本語教育を専攻とする大学院生を対象として、共生日本語教育実習が2000年以来開講されている（岡崎, 2002a, 2002b）。岡崎（2002a, 2002b）は、当該教育実習を通じ、定住外国人に加え、日本人も含めた日本語教育の場を提言した。また、増加する定住外国人の子息に対する教育として、年少者日本語教育も展開されている（Kanno, 2010; 小田, 2011）[[1]](#endnote-1)。

昨今、日本語教育において、ライフストーリー・インタビューに基づく質的研究が脚光を浴びている。ライフストーリー研究が着目されるのは、「調査する側からの要請というよりも、社会の側から要請されている」（桜井, 2005:16）。ためである。

## 2. 章の見出し

## 2.1 節の見出し

## 2.1.1 項の見出し

日本社会の多文化化を受け、社会を構成する受け入れ側と参入側の共生の必要性が唱えられてきた（松尾, 2006; 野々口, 2012）。お茶の水女子大学では、日本語教育を専攻とする大学院生を対象として、共生日本語教育実習が2000年以来開講されている（岡崎, 2002a, 2002b）。岡崎（2002a, 2002b）は、当該教育実習を通じ、定住外国人に加え、日本人も含めた日本語教育の場を提言した。また、増加する定住外国人の子息に対する教育として、年少者日本語教育も展開されている（Kanno, 2010; 小田, 2011）。

昨今、日本語教育において、ライフストーリー・インタビューに基づく質的研究が脚光を浴びている。ライフストーリー研究が着目されるのは、「調査する側からの要請というよりも、社会の側から要請されている」（桜井, 2005:16）。ためである。

日本社会の多文化化を受け、社会を構成する受け入れ側と参入側の共生の必要性が唱えられてきた（松尾, 2006; 野々口, 2012）。お茶の水女子大学では、日本語教育を専攻とする大学院生を対象として、共生日本語教育実習が2000年以来開講されている（岡崎, 2002a, 2002b）。岡崎（2002a, 2002b）は、当該教育実習を通じ、定住外国人に加え、日本人も含めた日本語教育の場を提言した。また、増加する定住外国人の子息に対する教育として、年少者日本語教育も展開されている（Kanno, 2010; 小田, 2011）。

 表1. 表のタイトル

このボックス内に図表を挿入し、

外枠の罫線を消します。

①罫線上にカーソルをおいて右クリック→

②「テキストボックスの書式設定」を選ぶ→

③「色と線」タブをクリック→

④「線」の下の「色」を「線なし」に指定

（注意事項はp.4のボックスを参照）

## 2.1.2 項の見出し

昨今、日本語教育において、ライフストーリー・インタビューに基づく質的研究が脚光を浴びている。ライフストーリー研究が着目されるのは、「調査する側からの要請というよりも、社会の側から要請されている」（桜井, 2005:16）。ためである。

日本社会の多文化化を受け、社会を構成する受け入れ側と参入側の共生の必要性が唱えられてきた（松尾, 2006; 野々口, 2012）。お茶の水女子大学では、日本語教育を専攻とする大学院生を対象として、共生日本語教育実習が2000年以来開講されている（岡崎, 2002a, 2002b）。岡崎（2002a, 2002b）は、当該教育実習を通じ、定住外国人に加え、日本人も含めた日本語教育の場を提言した。また、増加する定住外国人の子息に対する教育として、年少者日本語教育も展開されている（Kanno, 2010; 小田, 2011）。

## 3. 章の見出し

## 3.1 節の見出し

日本社会の多文化化を受け、社会を構成する受け入れ側と参入側の共生の必要性が唱えられてきた（松尾, 2006; 野々口, 2012）。お茶の水女子大学では、日本語教育を専攻とする大学院生を対象として、共生日本語教育実習が2000年以来開講されている（岡崎, 2002a, 2002b）。岡崎（2002a, 2002b）は、当該教育実習を通じ、定住外国人に加え、日本人も含めた日本語教育の場を提言した。また、増加する定住外国人の子息に対する教育として、年少者日本語教育も展開されている（Kanno, 2010; 小田, 2011）。

## 3.2 節の見出し

日本社会の多文化化を受け、社会を構成する受け入れ側と参入側の共生の必要性が唱えられてきた（松尾, 2006; 野々口, 2012）。お茶の水女子大学では、日本語教育を専攻とする大学院生を対象として、共生日本語教育実習が2000年以来開講されている（岡崎, 2002a, 2002b）。岡崎（2002a, 2002b）は、当該教育実習を通じ、定住外国人に加え、日本人も含めた日本語教育の場を提言した。また、増加する定住外国人の子息に対する教育として、年少者日本語教育も展開されている（Kanno, 2010; 小田, 2011）。

## 4. 章の見出し

## 4.1 節の見出し

日本社会の多文化化を受け、社会を構成する受け入れ側と参入側の共生の必要性が唱えられてきた（松尾, 2006; 野々口, 2012）。お茶の水女子大学では、日本語教育を専攻とする大学院生を対象として、共生日本語教育実習が2000年以来開講されている（岡崎, 2002a, 2002b）。岡崎（2002a, 2002b）は、当該教育実習を通じ、定住外国人に加え、日本人も含めた日本語教育の場を提言した。また、増加する定住外国人の子息に対する教育として、年少者日本語教育も展開されている（Kanno, 2010; 小田, 2011）。

昨今、日本語教育において、ライフストーリー・インタビューに基づく質的研究が脚光を浴びている。ライフストーリー研究が着目されるのは、「調査する側からの要請というよりも、社会の側から要請されている」（桜井, 2005:16）。ためである。

## 4.2 節の見出し

日本社会の多文化化を受け、社会を構成する受け入れ側と参入側の共生の必要性が唱えられてきた（松尾, 2006; 野々口, 2012）。お茶の水女子大学では、日本語教育を専攻とする大学院生を対象として、共生日本語教育実習が2000年以来開講されている（岡崎, 2002a, 2002b）。岡崎（2002a, 2002b）は、当該教育実習を通じ、定住外国人に加え、日本人も含めた日本語教育の場を提言した。また、増加する定住外国人の子息に対する教育として、年少者日本語教育も展開されている（Kanno, 2010; 小田, 2011）。

昨今、日本語教育において、ライフストーリー・インタビューに基づく質的研究が脚光を浴びている。ライフストーリー研究が着目されるのは、「調査する側からの要請というよりも、社会の側から要請されている」（桜井, 2005:16）。ためである。

日本社会の多文化化を受け、社会を構成する受け入れ側と参入側の共生の必要性が唱えられてきた（松尾, 2006; 野々口, 2012）。お茶の水女子大学では、日本語教育を専攻とする大学院生を対象として、共生日本語教育実習が2000年以来開講されている（岡崎, 2002a, 2002b）。岡崎（2002a, 2002b）は、当該教育実習を通じ、定住外国人に加え、日本人も含めた日本語教育の場を提言した。また、増加する定住外国人の子息に対する教育として、年少者日本語教育も展開されている（Kanno, 2010; 小田, 2011）。

昨今、日本語教育において、ライフストーリー・インタビューに基づく質的研究が脚光を浴びている。ライフストーリー研究が着目されるのは、「調査する側からの要請というよりも、社会の側から要請されている」（桜井, 2005:16）。ためである。

日本社会の多文化化を受け、社会を構成する受け入れ側と参入側の共生の必要性が唱えられてきた（松尾, 2006; 野々口, 2012）。お茶の水女子大学では、日本語教育を専攻とする大学院生を対象として、共生日本語教育実習が2000年以来開講されている（岡崎, 2002a, 2002b）。岡崎（2002a, 2002b）は、当該教育実習を通じ、定住外国人に加え、日本人も含めた日本語教育の場を提言した。また、増加する定住外国人の子息に対する教育として、年少者日本語教育も展開されている（Kanno, 2010; 小田, 2011）。

このボックス内に図表を挿入し、

外枠の罫線を消します。

①罫線上にカーソルをおいて右クリック→

②「テキストボックスの書式設定」を選ぶ→

③「色と線」タブをクリック→

④「線」の下の「色」を「線なし」に指定

・図表のフォントサイズは小さくしてもよいが、8ptまでとする。

・複数ページにわたる大きい図表はテキストボックスに入れないで、セクション区切りを挿入した上、直接表を作成する。

・テキストボックスが文章の上に重なってしまうことがあるので注意する。右クリックで、「描画キャンパスの書式設定」を選択→「レイアウト」の「行内」を選択する。

## 図1. 図のタイトル（MSゴシックとArialで、9pt）

## 5. 章の見出し

日本社会の多文化化を受け、社会を構成する受け入れ側と参入側の共生の必要性が唱えられてきた（松尾, 2006; 野々口, 2012）。お茶の水女子大学では、日本語教育を専攻とする大学院生を対象として、共生日本語教育実習が2000年以来開講されている（岡崎, 2002a, 2002b）。岡崎（2002a, 2002b）は、当該教育実習を通じ、定住外国人に加え、日本人も含めた日本語教育の場を提言した。また、増加する定住外国人の子息に対する教育として、年少者日本語教育も展開されている（Kanno, 2010; 小田, 2011）。

昨今、日本語教育において、ライフストーリー・インタビューに基づく質的研究が脚光を浴びている。ライフストーリー研究が着目されるのは、「調査する側からの要請というよりも、社会の側から要請されている」（桜井, 2005:16）。ためである。

日本社会の多文化化を受け、社会を構成する受け入れ側と参入側の共生の必要性が唱えられてきた（松尾, 2006; 野々口, 2012）。お茶の水女子大学では、日本語教育を専攻とする大学院生を対象として、共生日本語教育実習が2000年以来開講されている（岡崎, 2002a, 2002b）。岡崎（2002a, 2002b）は、当該教育実習を通じ、定住外国人に加え、日本人も含めた日本語教育の場を提言した。また、増加する定住外国人の子息に対する教育として、年少者日本語教育も展開されている（Kanno, 2010; 小田, 2011）。

注

1. 後注はこの文書ファイルの最後に付加される。そのテキストをここに手作業でコピーする。（この作業はフォトレディー版の最終稿提出時でよい。）

2. 後注はこの文書ファイルの最後に付加される。そのテキストをここに手作業でコピーする。（この作業はフォトレディー版の最終稿提出時でよい。）

3. 後注はこの文書ファイルの最後に付加される。そのテキストをここに手作業でコピーする。（この作業はフォトレディー版の最終稿提出時でよい。）

4. 後注はこの文書ファイルの最後に付加される。そのテキストをここに手作業でコピーする。（この作業はフォトレディー版の最終稿提出時でよい。）

5. 後注はこの文書ファイルの最後に付加される。そのテキストをここに手作業でコピーする。（この作業はフォトレディー版の最終稿提出時でよい。）

参考文献

岡崎眸 (2002a)「多言語・多文化社会を切り開く日本語教育」『内省モデルに基づく日本語教育実習理論の構築』平成11年～13年度　科学研究費補助金研究　基盤研究 (C) (2) 研究成果報告書　研究代表者　岡崎眸, 299-321.

岡崎眸 (2002b)「内容重視の日本語教育‐多言語多文化共生社会における日本語教育の視点から‐」『内省モデルに基づく日本語教育実習理論の構築』平成11年～13年度　科学研究費補助金研究　基盤研究 (C) (2) 研究成果報告書　研究代表者　岡崎眸, 322-339.

小田珠生 (2011)「言語少数派生徒のための『父母と協働の持続型ケアモデル』の可能性‐母親に対するインタビュー調査から‐」『言語文化と日本語教育』(42), 1-10.

桜井厚 (2005)「第1章　ライフストーリー・インタビューをはじめる」桜井厚・小林多寿子(編)『ライフストーリー・インタビュー　質的研究入門』せりか書房, 11-70.

真田信治・渋谷勝巳・陣内正敬・杉戸清樹 (1992)『社会言語学』おうふう社

田中里奈 (2012)「『日本語＝日本人』という規範からの逸脱‐『在日コリアン』教師のアイデンティティと日本語教育における戦略」『リテラシーズ』9, 1-10. http://literacies.9640.jp/dat/litera09-1.pdf (2012年1月20日)

野々口ちとせ (2012)「対話における言語の機能と発達‐地域日本語教室で日本人と外国人がともにことばを学ぶこと‐」平成24年度お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科博士論文 (未公刊)

松尾慎 (2006)「ホスト住民が持つ外国 籍住民との相利共生意識」植田晃次・山下仁 (編)『「共生」の内実‐批判的社会言語学からの問いかけ‐』三元社, 81-105.

文部科学省 (2007) 「『留学生30万人計画』の骨子の策定について」

http://www.mext.go.jp/b\_menu/houdou/20/07/08080109.htm (2012年1月20日)

Clahsen, H. (1984). The acquisition of German word order: A test case for cognitive approaches to L2 development, In R. Andersen (Ed.)*, Second language: A cross-linguistic perspective*, Rowley, MA: Newbury House, 219-242.

Comrie, B. (1989). *Language universals and linguistic typology : Syntax and morphology*, Oxford : Blackwell. (松本克巳・山本秀樹 (訳) 1992『言語普遍性と言語類型論』ひつじ書房)

Dulay, H. & Burt, M. K. (1973). Should we teach children syntax? *Language Learning,* 23, 245-258.

Hanson, J. (2011). Teacher reflection and identity: Teaching a language from within an L2 cultural identity, or teaching from within L1 culture about L2. *The Journal of Language Teaching and Learning* 1 (1), 1-38.

Kanno, Y. (2010) .Language Minority Education in Japan. In A. Creese, P. Martin, and N. H. Hornberger (Eds.), *Ecology of Language.* NY: Springer.

Wooffitt, R. (2005). *Conversation analysis and discourse analysis: A comparative and critical introduction.* London: SAGE Publications.

おちゃ　はなこ／お茶の水女子大学大学院　応用日本言語論講座

ocha\_hana@yahoo.co.jp

※ページの最後に「改ページ」を挿入する。文末脚注はこのまま残して提出してよい。

1. [↑](#endnote-ref-1)